

平成25年度 第1回健康づくり審議会の開催状況について

(1) 開催日時：平成25年10月29日(火) 13:30～15:30

(2) 開催場所：兵庫県職員会館1階ホール

(3) 議 題

協議事項：兵庫県健康づくり推進実施計画に基づく今後の取り組みについて
～働き盛り世代とその家族に関する主な推進施策を中心に～

報告事項： 兵庫県新型インフルエンザ等対策行動計画について
8020 運動推進部会の開催状況について
地域・職域連携推進協議会の開催状況について

(4) 協議事項に関する主な意見

〔現状と課題について〕

中小企業の現状について

- ・大企業は比較的施策が充実しているが、うつ病の治療をして病状が改善しても、中小企業では復職が難しく、結局辞めざるを得ない状況がある。
- ・企業に専属の産業医がおらず、健診や健康づくりをやれていないところがある。医師会や産業保健推進センターは、産業医がいない企業や休みがとれにくい人でも相談ができるよう、休日に医師の相談日を開設したり、研修会を実施しているが参加はない。
- ・非正規職員や家族が健診を受診できない等の現状がある。
- ・企業の健康づくりを進めるためには、管理者の認識や全社的な取り組みが必要である。
- ・会社ぐるみで取り組んでほしいとの声を聞く。健康づくりチャレン企業制度の立ち上げもあり、健康づくりの対策は会社を巻き込まないと難しい。

若い世代への対策について

- ・医師会や薬剤師会、看護協会などが健康づくりの講座等を実施しているが、関心があって参加されるのは、比較的時間に余裕のある定年後の方がほとんどで、一番参加してほしい働き盛り世代にとどきにくい。
- ・働き始めると、急激に生活の変化から驚く程太り、生活習慣病のリスクが高くなることが多い。
- ・20～30歳代の方が健診後のフォロー、運動、禁煙など健康づくりの認識や行動ができていない。
- ・最近の若い世代は、テレビや新聞はあまり見ない。情報元はネットやスマホが中心であり、また、画一的な情報には背を向けるが、個々に発信されたことには意識を向けやすい。

女性への働きかけについて

- ・女性が夫や子ども等の健康管理をしていることが多いので、女性の健康意識が家族の健康に大きく影響してくる。母親の健康意識が低いと、その子どもは驚くほど虫歯が多い。

〔効果的な事業展開や働きかけについて〕

中小企業への効果的な事業展開について

- ・企業の一般健診と歯科健診をセットにする等、企業内で健診事業を同時に実施するような工夫が必要である。
- ・親会社から傘下企業への働きかけや、安全管理・安全対策の視点からの働きかけも有効である。
- ・企業内でも、管理者からの健康を認識した働きかけ、全社的な取り組みが必要である。担当部署や多方面から繰り返し勧奨することは効果的である。

地域の中での効果的な事業展開について

- ・神戸新聞社と歯科医師会、歯科衛生士会等が連携し、市内動物園で幼児の歯科健診を実施したように、企業、団体がレジャーと健康づくりのコラボを実施。気軽に、身近に、楽しいという視点での事業の組み立てや、家族と一緒に健康づくりの取り組みが必要である。
- ・産業医がいない小さな企業は、地域産業保健センター等を活用したり、複数の企業で産業医を選任したりすることも効果的である。（地域資源の活用）

若い世代への働きかけについて

- ・若い世代に健康意識が低いという問題は、中・高校、大学で健康に関する教育を強化することが重要である。
- ・若い世代の情報元はスマホやネットが中心であるため、伝えたい情報はスマホ、ネットの活用をすることが効果的である。
- ・健診がなぜ必要なのか、何を調べる検査なのか等、きめ細やかな情報提供を、個々に発信することが効果的である。

定年後や非正規職員の健康管理について

- ・定年後は、健康への関心が高い反面、健診実施も自己管理となるため、健康づくりの働きかけが必要である。
- ・非正規職員や健康弱者への健診や健康づくりの働きかけが必要である。